２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	国語	現代の国語	進学	2	下園・織田・根本

教科書	数研出版「現代の国語」
副教材	訂版』(いいずな書店),『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いいずな書店),『評論速読トレーニング1000』(数研出版)
評価基準	観点① 知識・技能 ・語句の意味を理解し、書き取り、読み方を正確にできるようにする。 ・文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。 ・比喩，例示，言い換えなどの修辞や，直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・文章の種類を踏まえて，内容や構成，論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え，要旨や要点を把握すること。 ・本文内容を具体的にわかりやすく言い換えられること。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・授業姿勢（提示された問いについて書く、教員やクラスメイトの話を聞く、様々な文章を読むなど） ・小テストや課題
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1･2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10
テスト・評価の内訳	観点① 語句の知識や漢字の書き取り、接続詞
	観点② 内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等
	観点③ 授業姿勢・ノートなど提出物・小テスト
授業のねらい・進め方・注意点	【ねらい】真摯に文章と向き合い、内容を理解することで、自身の人生と学んだ文章の概念を照らし合わせて豊饒な心を養う。 ・教科書、ノート（点検実施）、ペンの用意をする。ipadは指示があるときのみ使用する。 ・チャイム着席とは始業チャイムが鳴る前に上記の準備物を用意し、着席しているということである。 ・漢字、現代文単語の小テストと速読トレーニング（初見問題の読解トレーニング）を行う。
家庭学習	学習内容と進め方：できる限り読書すること。新聞を読むこと、教科書を読むことを勧める。漢字については常にすき間時間で学習する。わからない単語は辞書や単語帳を用いて調べる。
	学習の目安時間・分量：漢字の小テストは100問を範囲とするので、その学習をトータルで1時間以上工面すること。また小テストの復習を行うこと。
	学習状況の確認方法：小テストを実施
	成績評価との関係：観点３に入れる
図書資料の活用等・探究へのつながり	読書をできる限り行うのに図書室の本を活用すること。

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	『コミュニケーション能力とは何か』 『ポスト・プライバシー』	
	5	漢字テスト3回 速読トレーニング3回 中間考査	作品読解について：評論文の読み方を学び、文章を精読する。評論文のテーマについても学習する。 漢字テストについて：脚注の意味にも着目し、学習する。1学期は最重要500語、重要語A200語までを範囲とし、夏休みに復習する。
	6	『わらしべ長者の経済学』 『ものとことば』 漢字テスト4回 速読トレーニング4回	速読トレーニングについて：作品読解で習得した読み方を用いて読解のトレーニングをする。
	7	期末考査	夏休みの宿題として単語帳を範囲としたものを課す。休み明けにテスト実施
2	9	『羅生門』 芥川龍之介について 『羅生門の最後の一文』	羅生門に関わる評論文を読むために必要となる作品読解を行う。 他は1学期と同様
	１０	漢字テスト4回 速読トレーニング4回 中間考査	
	１１	『時間と自由の関係について』 『浪費を妨げる社会』 漢字テスト4回 速読トレーニング4回	
	１２	期末考査	2学期までで漢字テストの範囲を重要語Bまでとする。
3	1	『他者を理解すること』 『命は誰のものなのか』 『無痛化する社会のゆくえ』	1学期と同様 評論文の意見に対し、自分の意見を述べられるようにする。
	2	漢字テスト5回 速読トレーニング5回 期末考査	3学期はこれまでの漢字範囲の復習をする。

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	国語	言語文化		3	大須賀・織田・根本・内田

教科書	『言語文化』数研出版
副教材	『言語文化 準拠ワーク』数研出版 『Key&Point古文単語330』いいずな書店 『古典の手引き』『古典の手引き　定着ノート』いいずな書店　小論文チャレンジノートvol.1・2
評価基準	観点① 知識・技能 単語、文法（句法）、修辞法、古文常識・漢文常識を理解し、身につけること。 文脈に即して語句の意味を正確に捉えることができること。
	観点② 思考力・判断力・表現力 古典は単語や文法を用いて現代語訳ができること。 作品の主題、登場人物の心情を読み取ることができること。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 工夫が見られるノートを提出。しっかり取り組んだワークや課題。 発言や発表を含む授業姿勢。文法、句法、単語の小テスト。
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1･2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10
テスト・評価の内訳	観点① 単語、文法、古文常識、句法、語句などの知識
	観点② 現代語訳、文脈に即した内容理解、表現の特徴の理解
	観点③ ①ノート提出 ②ワーク提出 ③課題（小テスト） ④授業姿勢
授業のねらい･進め方･注意点	今まで学んできた「国語」と呼ばれるものは「日本語」と一括りにされてしまう。しかし、実は「日本語」には様々な種類があり、それぞれに特徴を有している。そこで、古典、漢文、近現代の文学をバランスよく学ぶことで、日本語の表現の幅や豊かさを理解することができる。また、単語や文法を習得したり、表現を方法を理解したりすることで、日本の文化として受け継がれてきた感性や考え方を読み解くことができる。
家庭学習	学習内容と進め方：古文文法や漢文句法について復習を行い、頭に入れる。古文単語、漢文単語についてもすき間の時間に学習できるようにする。古典については音読をしっかりすることは学習効果を上げる。
	学習の目安時間・分量：授業内で扱った事項をその日のうちに復習する。1回で30分～1時間は必要である。
	学習状況の確認方法：小テスト
	成績評価との関係：観点３
図書資料の活用等・探究へのつながり	読書を行うために図書室の本を活用すること。 古典作品に関わる書物を読むこと。

授業の計画

学期	月	教材	内容
1学期	4月	①ガイダンス	・ノートの取り方・授業の進め方
		②古文基礎知識	・仮名遣いと品詞
		③『竹取物語』	・文法の理解「用言」プリント
		「なよ竹のかぐや姫」	・逐語訳を作る
	5月	④『徒然草』「ある人～」	・比喩表現の効果についての理解
			・人物の描き方への理解
			・随筆への理解を深める
		中間考査	**※試験範囲に古文単語を含む**
		④の続き	
	6月	⑤漢文基礎知識	・教p138/139,142/143,漢文入門導入編
		「入門一、二」	・置き字
		⑥「故事成語」	・句法の理解「再読文字」「否定」
		「漁夫の利」「矛盾」	
	7月		
		期末考査	**※古文単語、古文文法を含む**
2学期	9月	①夏休み課題確認	・文法事項の復習
		②『枕草子』	・文法の理解「助動詞」
		「雪のいと高う降りたるを」	・随筆への理解を深める
		③白氏文集	・中国「春秋戦国時代」への理解
	10月	④『史伝』「先従隗始」	・句法の理解「受身」「使役」
		中間考査	**※試験範囲に古文単語を含む**
		⑤『城之崎にて』	・人物の内面を読み取る
	11月		
		⑥『伊勢物語』「芥川」	・文法の理解「用言の復習」「助動詞」
	12月		・和歌の解釈について
		期末考査	**※漢文句法復習、古文単語を含む**
3学期	1月	①冬休み課題確認	
		②『土佐日記』門出	・助動詞の識別に慣れる
		③近現代・詩/短歌/俳句	・韻文への理解
		④漢詩	・漢詩の決まり・漢文入門「漢詩」
	2月	⑤古今和歌集	・万葉集/古今/新古今それぞれの特徴
		学年末考査	

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	地歴公民	歴史総合	進学	2	山本・野々村・誉田・鹿内

教科書	『明解　歴史総合』帝国書院
副教材	『明解　歴史総合 ノート』帝国書院 適宜資料を配布する
評価基準	観点① 知識・技能 社会生活を営む上で、必要となる共通用語や人物を正確に理解し、使用することができる。また、いくつかの資料から社会に起きている事象を読み解くことができる。
	観点② 思考力・判断力・表現力 私たちの生きる社会構造について、メリット・デメリットを理解し、それについての自らの考えを持ち、適切に判断、表現をすることができる。資料を適切に活用できる。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 私たちが生きる社会の中で起こる事象について、積極的に関心を持って考えることができる。社会の一員として、諸問題の解決策を自ら考えることができる。
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1･2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10
テスト・評価の内訳	観点①　基本用語や人物名、年代など正確に記述することができる。資料をもとに社会の事象について、正確に把握し、理解することができる。
	観点②　いくつかの選択肢の中から、正確な情報を選び取ることができる。社会で起こる事象について、的確な用語を使って説明することができる。
	観点③　課題や授業に対し、積極的に取り組む。また、社会の事象に対し、興味関心を持って知識を深め、他者と意見交換を行い、より深い自分の考えをまとめる。
授業のねらい･進め方･注意点	**世界史の中で日本史（世界と日本のつながり）をとらえる。現代の諸課題について歴史から考える。**社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。授業は、講義形式だけでなく、自らの考えをまとめたり、グループで考えるなど、多くの考え方に触れる機会をつくる。
家庭学習	学習内容と進め方：教科書準拠のワークブックを用いた学習をすること。
	学習の目安時間・分量：特に時間や分量に指定はないが、ただ歴史用語を暗記するのではなくその用語を説明できるまで学習すること。
	学習状況の確認方法：定期考査前にワークを提出
	成績評価との関係：観点③の評価に加える
図書資料の活用等・探究へのつながり	授業中に図書室資料を紹介する。 本を活用する課題を課す予定。

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	□ 教科書 □ 副教材 □ 配布資料 （適宜）	基本事項確認 1部 歴史の扉 ・1章　歴史と私たち ・2章　歴史の特質と資料 2部　近代化と私たち ・2章　江戸時代の日本と結びつく世界 ・3章　欧米で生まれる国民国家 ＜中間考査＞ ・4章　産業革命による欧米とアジアの変化 ・5章　日本における近代国家の形成 ・6章　帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化 ＜期末考査＞ 夏休み課題
2	9 10 11 12	□ 教科書 □ 副教材 □ 配布資料 （適宜）	3部　国際秩序の変化や大衆化と私たち ・2章　第一次世界大戦とその影響 ・3章　大衆社会の形成と社会運動 ・4章　揺らぐ国際秩序と日本の行方 ＜中間考査＞ ・5章　第二次世界大戦とその影響 ＜期末考査＞ 冬休み課題
3	1 2 3		4部　グローバル化と私たち ・2章　冷戦で揺れる世界と日本 ・3章　多極化する世界 4章　グローバル化のなかの世界と日本 ＜学年末考査＞

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	公民	公共	進学	2	黒羽・西尾・長尾知

教科書	実教出版　詳述公共　新訂版	
副教材	実教出版　詳述公共　演習ノート その他適宜資料を配布する	
評価基準	観点① 知識・技能 教科書に書かれている基本用語の意味を理解し、日常で使用される政治用語などを適切に把握することができる。	
	観点② 思考力・判断力・表現力 文章やグラフを読み取ることができ、そこから社会がおかれている状況を理解することができる。身に着けた知識を適切に使用することができる。	
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業に取り組む意欲や態度、課題の内容や提出状況、社会の出来事に対して興味関心など総合的に判断する。	
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。	
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1･2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50% + 観点②学年末5% + 観点③ 10	
テスト・評価の内訳	観点①　基本用語や人物名を正確に理解し、記述することができる。	
	観点②　文章や資料から、いくつかの選択肢の中から適切な選択肢を選ぶことができる。 また内容を文章や発言等で適切に表現ができる。	
	観点③　授業に取り組む姿勢や課題の内容や提出状況等で判断する。 日頃から社会の出来事に興味関心を持つことも大事である。	
授業のねらい･進め方･注意点	中学校で学んだ知識を基に、より専門的な知識を習得することで、社会の構造やしくみを理解する。また、諸課題に対しての理解を深め、将来主権者になる自覚と自らの考えを持てるようになるための素養を身につける。日頃から、ニュースなどに興味関心のあることだけでなく、社会に対しての視野を広げるようにすることが大事である。授業の進め方については、最初の授業時に担当者より説明。	
家庭学習	学習内容と進め方	「公共の扉」と「よりよい社会の形成に参加する私たち」の内「政治分野」と扱う。進め方は授業時に担当者より説明。
	学習の目安時間・分量	次回授業の教科書の範囲にめを通しておくことが望ましい。毎日15分程度はテレビのニュースを観て社会の動きを知る。
	学習状況の確認方法	学期ごとに数回、社会の出来事についてレポートをまとめる。
	成績評価との関係	上記レポートの内容や提出状況を評価の際、加味する。
図書資料の活用等・探究へのつながり	ネットの情報だけでなく、新聞や書籍など活字から情報を収集することも大事である。 学校の図書室や地域の図書館なども積極的に使用してほしい。	

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	教科書 演習ノート その他	第１編 公共の扉 第２章 人間としてよく生きる １　ギリシア思想 ２　宗教の教え ３　人間の尊重 ４　人間の自由と尊厳 ５　個人と社会 中間考査 ６　主体性の確立 ７　他者の尊重 ８　公正な社会 第３章　民主社会 １　人間の尊厳と平等 ２　自由・権利と責任・義務 期末考査
2	9 １０ １１		第4章　民主国家における基本原理 １　人権保障の発展と民主政治の成立 ２　国民主権と民主政治の発展 第2編 第1章　日本国憲法の基本的性格 １　日本国憲法の成立 中間考査 ２　平和主義とわが国の安全 ３　基本的人権の ４　人権の広がり 期末考査
3	1 2		第２章 日本の政治機構と政治参加 １　政治機構と国民生活 ２　人権保障と裁 ３　地方自治 ４　選挙と政党 学年末考査

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	数学	数学Ⅰ	進学クラス	3	平田・和久井・宮山・与那嶺・佐竹

教科書	数研出版 新編 数学Ⅰ
副教材	数研出版 ３ＴＲＩＡＬ 数学Ⅰ＋Ａ
評価基準	観点①【知識・技能】 場合の数と確率・図形の性質・整数各分野について、基幹知識を身に着け、それらを用いて基本的な問題の解決ができる。
	観点②【思考力・判断力・表現力】 各分野の基幹知識について、その原理を考え理解するとともに、基幹知識をもとに発展的な問題の解決ができる。
	観点③【主体的に学習に取り組む態度】 基幹知識やその原理を自分にとって当たり前だと思えるようになるまで粘り強く考えることができる。 「わからない」ことと向き合い、教員やともに学習する友人の声に耳を傾け、数学的な議論ができる。
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	定期考査ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。
テスト･評価の内訳	観点① 教科書の例、例題、これらに関連する問題。3TRIALのTRIAL Aレベルの問題
	観点② 教科書の応用例題、問題、３TRIALのTRIAL Bレベルの問題
	観点③ 提出物
授業のねらい･進め方･注意点	1学年の数学の授業は中学校で学んだ数学とのつながりを重視しつつ、高等学校 における数学の基礎内容を学び、より深く数学を学ぶ事へとつなげていくことを 目的としています。第１章「数と式」に代表されるように、計算などの基本的な 内容が多く含まれているのが数学Ⅰです。したがって、この内容を正確に理解す ることが、２年生以降の数学の学習に大きく関わってきます。
家庭学習	学習内容と進め方：問題集「３TRIAL」を最低2周、可能な限り3周解くこと ・1週目授業の復習・2週目個人の学習・3週目試験前の確認
	学習の目安時間・分量：授業でやった範囲をその日のうちに復習し、最低でも次の授業までには必ず解いておくこと。1週間で2時間ほどで可能。
	学習状況の確認方法：定期考査の最終日までに担当者に提出。理想は定期考査の日に担当者に直接提出。 詳細は各授業担当者に確認のこと。
	成績評価との関係：観点③の評価となる。
図書資料の活用等・探究へのつながり	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 恋と禁忌の述語論理・井上真偽 シュレーディンガーの少女・松崎有理

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	数研出版　新編　数学Ⅰ	第1章　数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章　集合と命題 第3章　2次関数 第1節 2次関数とグラフ
2	9 10 11 12	数研出版　新編　数学Ⅰ	第3章　2次関数 第1節 2次関数 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式 第4章　図形と計量 第1節 三角比
3	1 2 3	数研出版　新編　数学Ⅰ	第4章　図形と計量 第2節 三角形への応用 第5章　データの分析

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	数学	数学A	進学クラス	2	木村・伊東・与那嶺

教科書	数研出版 新編 数学A
副教材	数研出版 ３ＴＲＩＡＬ 数学Ⅰ＋Ａ
評価基準	観点① 【知識・技能】 場合の数と確率・図形の性質・整数各分野について、基幹知識を身に着け、それらを用いて基本的な問題の解決ができる。
	観点② 【思考力・判断力・表現力】 各分野の基幹知識について、その原理を考え理解するとともに、基幹知識をもとに発展的な問題の解決ができる。
	観点③ 【主体的に学習に取り組む態度】 基幹知識やその原理を自分にとって当たり前だと思えるようになるまで粘り強く考えることができる。 「わからない」ことと向き合い、教員やともに学習する友人の声に耳を傾け、数学的な議論ができる。
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	定期考査ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。
テスト･評価の内訳	観点① 教科書の例、例題、これらに関連する問題。3TRIALのTRIAL Aレベルの問題　50点
	観点② 教科書の応用例題、問題、３TRIALのTRIAL Bレベルの問題　50点
	観点③ 提出物　10点
授業のねらい･進め方･注意点	・ノートを準備しましょう。ノートを取る際、板書を写すことにとどまらず、教員の話で大事だと思ったことをメモするなど、能動的姿勢を意識してください。復習が大変重要です！授業内で理解するだけではなく、自分でノートを見返し,問題を解くことで内容を定着させましょう。 ・質問は積極的にしましょう！理解できないことは悪いことではなく、理解するための重要なステップです。生徒同士で議論することも大歓迎です。質問や議論を通して、わからないことと格闘しましょう。
家庭学習	学習内容と進め方：問題集「３TRIAL」を最低2周、可能な限り3周解くこと ・1週目授業の復習・2週目個人の学習・3週目試験前の確認
	学習の目安時間・分量：授業でやった範囲をその日のうちに復習し、最低でも次の授業までには必ず解いておくこと。1週間で2時間ほどで可能。
	学習状況の確認方法：定期考査の最終日までに担当者に提出。 理想は定期考査の日に担当者に直接提出。
	成績評価との関係：観点③の評価となる。
図書資料の活用等・探究へのつながり	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 光秀の定理(垣根涼介) 、浜村渚の計算ノート４(青柳碧人)

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	数研出版 数学A	第１章 場合の数と確率 第１節 場合の数 ・集合の要素の個数 ・場合の数 ・順列 ・円順列 ・重複順列 ・組合せ 第２節 確率 ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率 ・条件付き確率
2	9 10 11 12	数研出版 数学A	第2章 図形と性質 第１節 平面図形 ・三角形の辺の比　・三角形の外心 ・内心・重心 ・チェバ・メネラウスの定理 ・円に内接する四角形 ・円と直線 ・方べきの定理 ・２つの円の位置関係 第２節 空間図形 ・直線と平面 ・多面体 第3章 整数の性質 第１節 整数の性質 ・約数と倍数
3	1 2 3	数研出版 数学A	第3章 整数の性質 第1節 整数の性質 ・最大公約数と最小公倍数 ・整数の割り算と商および余り 第２節 ユークリッドの互除法 ・ユークリッドの互除法 ・１次不定方程式 第３節 整数の性質の活用 ・分数と小数 ・ｎ進法

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	理科	物理基礎	進学	2	有田・榎本

教科書	物理基礎（物基703）実教出版
副教材	物理基礎学習ノート　数研出版
評価基準	観点① 知識・技能 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解できる。 公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。
	観点② 思考力・判断力・表現力 実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題に真剣に取り組み、知識や思考力等の成長のために努力できる。また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1･2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10
テスト･評価の内訳	観点①　授業で取り扱った基本的な問題・語句等の知識問題
	観点②　応用的な問題・初見の問題
	観点③　提出物・レポート・普段の取り組み・小テスト等
授業のねらい･進め方･注意点	物理基礎の範囲について、教科書や副教材・授業プリント等を用いて学習します。 問題演習等を通して、科学的な思考力を身につけましょう。 家庭学習では、副教材や授業で行った問題に取り組みましょう。
家庭学習	学習内容と進め方：「物理基礎学習ノート」を進める。 教科書や授業資料を振り返る。
	学習の目安時間・分量：考査前までに、その範囲の問題を解く。 授業で取り扱った内容はその日のうちに取り組むのが望ましい。
	学習状況の確認方法：考査の日に理科室１に提出
	成績評価との関係：観点③に加える。
図書資料の活用等・探究へのつながり	学期ごとに出すレポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	物理基礎第1章2節　力 物理基礎 第1章 1節 運動の表し方	力の種類と働き 作用反作用とつりあい 弾性力・摩擦力 位置と変位 等速直線運動 等加速度運動
2	9 10 11 12	物理基礎 第1章 3節 運動の法則 物理基礎 第2章 1節 運動とエネルギー 物理基礎 第2章 2節 熱とエネルギー	重力加速度 落体の運動 慣性の法則 運動の法則と運動方程式の活用 仕事と力学的エネルギー 仕事と仕事率 位置エネルギーと運動エネルギー 力学的エネルギー保存 熱と温度 熱容量と比熱 熱と仕事 熱量の保存
3	1 2	物理基礎 第4章 1節 電流 物理基礎 第4章 2節 電気の利用	静電気 電流 オームの法則と抵抗の接続 電気とエネルギー 電流と磁場 モーターの原理

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	理科	生物基礎	進学	2	筒井・笛木

教科書	・高等学校　生物基礎　第一学習社　　・高等学校　化学基礎　実教出版
副教材	・プログレス生物基礎　第一学習社 ・アクセスノート化学基礎　実教出版
評価基準	観点① 知識・技能 語句　単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能　実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い　単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見　状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲　自分で必要だと思ったことを実施し、語句の習得のための努力を重ねる。 関心　習得した理論の歴史や社会的意義を調べたり、考察したりする。
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1･2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10
テスト･評価の内訳	観点① ・教科書の本文や参考、演習に記載された語句の意味を、どの程度理解しているか。 ・副教材の演習問題に習熟しているか、及び、類題が解答可能かどうか。
	観点② ・教科書の？、Q、check、TRYなどの問いに対して、意見を述べられるかどうか。 ・副教材の演習問題への習熟しているか、及び、類題が解答可能かどうか。
	観点③ ・ノートや振り返りの中身に表れる意欲（10点、ルーブリック表参照） ・実験レポート、調べ学習レポートの中身に表れる関心（10点、ルーブリック表参照）
授業のねらい･進め方･注意点	・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・学習者は、？・Q・checkについての論述内容を記載する。 ・TRYについてはグループワークで解決を図り、グループで統一見解をつくる。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。
家庭学習	学習内容と進め方：ネオパルノートでの問題演習(最低2周)を中心に、教科書・資料集を活用しながら主体的に学習を進める。単なる用語暗記ではなく、生命現象の流れや因果関係を理解し、説明できるレベルでの知識の定着を目指す。
	学習の目安時間・分量：授業内容の復習を中心に、プログレスでの問題演習および教科書・資料集の確認を行う。知識の定着には日々の積み重ねが不可欠であるため、1回の授業につき20分～30分程度の家庭学習を継続的に行い、計画的に学習を進めること。
	学習状況の確認方法：考査最終日に授業担当者に提出。
	成績評価との関係：観点③の評価に加える。
図書資料の活用等・探究へのつながり	・学期ごとに出すレポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	生物基礎 教科書 発展の項目を除く 参考・演習に触れる	単元　生物の多様性と共通性 ？・Q・checkについて論述する TRYはグループワークで解決する
	5	教科書 発展の項目を除く 参考・演習に触れる	単元　生物の共通性の由来 ？・Q・checkについて論述する TRYはグループワークで解決する
	6	教科書 発展の項目を除く 参考・演習に触れる	単元　遺伝情報とDNA ？・Q・checkについて論述する TRYはグループワークで解決する
	7	教科書 発展の項目を除く 参考・演習に触れる	単元　DNAの複製と分配 ？・Q・checkについて論述する TRYはグループワークで解決する
2	9	教科書 発展の項目を除く 参考・演習に触れる	単元　遺伝情報とタンパク質 ？・Q・checkについて論述する TRYはグループワークで解決する
	10	教科書 発展の項目を除く 参考・演習に触れる	単元　転写と翻訳 ？・Q・checkについて論述する TRYはグループワークで解決する
	11	化学基礎　教科書 発展の項目を除く	単元　物質の探求 物質の構成粒子 教科書の問いレベルの問題を演習
	12	教科書	単元　さまざまな周期律 教科書の問いレベルの問題を演習
3	1	教科書	単元　物質と化学結合 （イオン結合、共有結合） 教科書の問いレベルの問題を演習
	2 3	教科書	単元　物質と化学結合 （分子間力、金属結合、化学結合と物質） 教科書の問いレベルの問題を演習

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	保健体育	保健	進学	1	保健体育科

教科書	現代高等保健体育（大修館）	
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）	
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材を正確に理解し、答えることができる。	
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①で習得したことを元にグループ内活動やその他取り組みにおいて、生かすことができる。	
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業内活動において積極的に発言することができる。	
考査	1学期期末･2学期期末･学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。	
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1･2学期: 観点①期末50x80% + 観点②期末50x80% + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10	
テスト･評価の内訳	観点①　授業内で取り組んだ基本的内容を基にした問題	
	観点②　授業内で活用した統計データやグラフから読み取る問題	
	観点③　ノートの取り組み及び提出状況（その他プリント含） レポート提出	
授業のねらい･進め方･注意点	択や実践及び環境の改善をしていく必要性、わが国の保健・医療制度や機関を適切に活用することの重要性を理解する。また、社会生活における集団の健康の保持増進には、環境などが深く関わっていることから環境衛生と疾病予防活動について理解できるようにする。 教科書・ノートを中心に授業を行い、プリントやビデオ等の教材も使用する。授業内容によって自宅学習をすることもある。	
家庭学習	学習内容と進め方	右記、授業計画の内容をもとに授業を実施する。分からない内容があれば、各自で復習すること。
	学習の目安時間・分量	教科書やノートの内容を理解するまで。
	学習状況の確認方法	定期考査もしくは授業内でノートの提出。 ※担当者からの指示を確認すること。
	成績評価との関係	観点３
図書資料の活用等・探究へのつながり		

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	現代高等保健体育	01.健康の考え方と成り立ち 02.私たちの健康のすがた 03.生活習慣病の予防と回復 04.がんの原因と予防 05.がんの治療と回復 06.運動と健康 ◎ノート提出 ☆期末考査
2	9 10 11 12	現代高等保健体育	07.食事と健康 08.休養・睡眠と健康 09.喫煙と健康 10.飲酒と健康 11.薬物乱用と健康 12.精神疾患の特徴 13.精神疾患の予防 14.精神疾患からの回復 ◎ノート提出 ☆期末考査
3	1 2 3	現代高等保健体育	15.現代の感染症 16.感染症の予防 17.性感染症・エイズとその予防 18.健康に関する意思決定・行動選択 19.健康に関する環境づくり ◎ノート提出 ☆期末考査

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	保健体育	体育	進学	2	保健体育科
教科書					
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について，自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，他者と協調性を大切にしようとするとともに，健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点＝100点満点で評価				
テスト･評価の内訳	観点①　体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける ※１学期は新体力テストが加わる。※３学期はシャトルランおよびマラソン大会、時間走で評価				
	観点②　観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③　観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目のそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい･進め方･注意点	体育の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習 過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって豊かなスポーツライフを継 続するとともに，自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内で実施した内容をもとに、実技動画を調べたうえで各自視聴し、次回授業に生かすようにすること。			
	学習の目安時間・分量	それぞれの技能に応じる。			
	学習状況の確認方法	実技テストでの評価			
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4 5 6 7	必要があれば提示	オリエンテーション 新体力テスト 大東体操 【男子】 グラウンド：ラグビー（基礎） ※基礎または応用～ゲーム 体育館：バレーボール（基礎） ※基礎または応用～ゲーム 【女子】 グラウンド：ラグビー（基礎） ※基礎または応用～ゲーム 柔道場：マット運動 ※基礎～応用・発展 グラウンド：実技テスト 体育館：実技テスト 柔道場：実技テスト
2	9 10 11 12	必要があれば提示	【男子】 グラウンド：陸上競技 ※ハードル・砲丸 柔道場：マット運動 ※基礎～応用・発展 【女子】 グラウンド：陸上競技 ※ハードル・砲丸 体育館：バスケットボール （基礎または応用～ゲーム） グラウンド：実技テスト 体育館：実技テスト 柔道場：実技テスト
3	1 2 3	必要があれば提示	グラウンド、体育館ともに持久走 グラウンド：実技テスト 体育館：実技テスト

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	芸術科	音楽Ⅰ	進学	2	溝口 佳洋

教科書	MOUSA1（教育芸術社）	
副教材	なし	
評価基準	観点① 知識・技能 【知識】 ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 【技能】 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。（歌唱）	
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚している。 ・それらの働きを感受しながら、知覚した事と感受したこととの関わりについて考えている。 ・どのように表すかについて表現意図をもっている。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞いたりしている。	
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
考査		
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 【3観点の比率と算出法】 観点①50% 観点②20% 観点③30%	
テスト・評価の内訳	観点①	・筆記小テスト（25点） ・実技テスト（25点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり
	観点②	・振り返りシート（10点） ・鑑賞シート（10点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり
	観点③	・授業態度や他者との協働（15点） ・自己評価シート 等（15点） ※内訳は学期によって変動する可能性あり
授業のねらい・進め方・注意点	・集団で活動する内容も多いため、一人ひとりの協力的な雰囲気づくりが重要。 ・作品提出や演奏の練習では、自らを分析的に客観視し、こだわりを持って追及する。 ・文化祭での発表を経て、「達成感」が得られるように活動していく。	
家庭学習	学習内容と進め方	各学期末に行う授業内筆記試験のために、その時期は各自で自宅学習をしてくることが不可欠となる。また、自宅での学習課題を多く課す予定はないが、授業内で終えることができなかった提出課題を、自宅で行ってくることを求める場合がある。
	学習の目安時間・分量	授業内筆記試験の自宅学習については、最低1～2時間は必要である。レポート課題や創作物に関しては、自らが納得のいくレベルまで突き詰めることが本質であるため、それに必要な時間は人それぞれである。自宅での活動は「延長活動」であるため、納得がいくまで時間をかけてほしい。
	学習状況の確認方法	筆記試験の得点、レポートの提出内容
	成績評価との関係	「テスト･評価の内訳」に準じて成績に反映する
図書資料の活用等・探究へのつながり	学期ごとに出すレポート課題の作成で、図書室の資料を活用する。また、音楽の世界をあらゆる角度から知ることは、授業だけでなく人生においても役立つことが多い。課題に限らず積極的に活用してほしい。	

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書	歌唱　「発声練習」 「翼をください」
		ミュージックノート	音楽理論（音符と休符）
	5・6	プリント	歌唱　「校歌」 「生徒歌」 ミュージックベル　「生徒歌」 「自由曲」
		プリント	音楽理論（音名）
2	9	プリント	文化祭準備 「ミュージックベル」 「合唱」
	10・11	教科書 プリント	鑑賞　「オーケストラの世界」 「映像と音楽の世界」
		プリント	合唱　「いのちの名前」
3	1・2	教科書	器楽（三線）
		プリント	「海の声」「涙そうそう」
		プリント	創作（DTM作曲）

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
１	芸術	美術Ｉ	進学	２	小西

教科書	高校生の美術１(日本文教出版)
副教材	なし
評価基準	観点① 知識・技能 知識：造形要素の働きの理解、イメージや作風、様式などでとらえることの理解 技能：材料や用具を生かす技能、創造的に表す技能/創造的に思考・判断・表現するための言語を使用する基礎的な技能
	観点② 思考力・判断力・表現力 主題の生成、発想、創造的な表現を構想する能力/創意工夫を思考する能力（制作） 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働き、美術文化などについて考え伝える能力（鑑賞）
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に美術の幅広い活動に取り組む態度
考査	なし
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する
テスト・評価の内訳	観点①観点① 知識・技能（50点） 小テスト5点、美術の基礎的な言語技能5点、作品40点
	観点② 思考・判断・表現力（20点） 制作中の振り返りWS（ワークシート）、鑑賞WS、小論文
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度（30点） 提出物10点、積極性10点、制作前の鑑賞WS＆制作終了後の振り返りWS10点
授業のねらい・進め方・注意点	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、 生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
家庭学習	学習内容と進め方：小テスト対策。基礎知識を身に着け、制作活動に活かすことを目指しましょう。
	学習の目安時間・分量：１５分程度あれば十分に復習可能です。
	学習状況の確認方法：授業内で実施します。（１、２学期各３回。３学期１回。）
	成績評価との関係：観点①の評価に加えます。
図書資料の活用等・探究へのつながり	授業時に美術や芸術に関連する書籍を紹介する。

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	立方体モチーフ デッサン用具	立方体のデッサン
	5	教科書、WS（ワークシート）	
			静物画の歴史（鑑賞）
	５，６	静物モチーフ 油彩用具 WS	油彩による静物画の制作 生徒作品の鑑賞、振り返り
2	9	教科書、WS	ポップアート（鑑賞）
	９，１０	イラストボード アクリルガッシュ等 WS	写真模写を通して配色を学ぶ 生徒作品の鑑賞、振り返り
	１１	WS	名画の構図分析（鑑賞） 分析発表会、振り返り
3	1	教科書、WS マーブリング液、アクリルガッシュ等	モダン・テクニック（鑑賞） モダン・テクニックによるコラージュ作品の制作
	2	教科書、WS iPad（ibisPaint） WS	キュビズム（鑑賞） キュビズムを用いた作品の制作 生徒作品の鑑賞、振り返り

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	芸術科	書道Ⅰ	2		佐藤敦子

教科書	書道Ⅰ・大修館書店
副教材	
評価基準	観点① 知識・技能 書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解するとともに，書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
	観点② 思考力・判断力・表現力 書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に書の幅広い活動に取り組み，主体的に書の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，書の伝統と文化に親しみ，書を通して心豊かな生活や社会を書を通して心豊かな生活や社会を創造する態度を養う。
考査	
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する (3観点の比率と算出法) 観点①50%　観点②20%　観点③30%
テスト・評価の内訳	観点①　作品評価40点 鑑賞文　書道史学習　書風の比較　10点
	観点②　レポート（1，2学期）　書道史・理論テスト（3学期）　10点 観点の書き込み　工夫　及びグループ学習　10点
	観点③　課題提出状況　10点 授業態度（作品レベル向上、グループ学習への取り組み）15点　自己評価5点
授業のねらい・進め方・注意点	・素直に柔軟に自分の身に取り入れるつもりで学習し、充実した時間にする。 ・良い作品に対するこだわりを捨てない。 ・作品制作の雰囲気作りに心がける。 ・大東文化大学主催全国書道展、文化祭芸術展への出品。
家庭学習	学習内容と進め方：ほぼ毎回classroom配信する動画を授業前に見ておく。レポート作成は自宅等で行う。筆記テストに向けて学習しておく。
	学習の目安時間・分量：毎回の動画視聴は10分程度。レポート、テストの準備は一週間ほど毎日30分学習。
	学習状況の確認方法：作品およびレポート、筆記テストの採点。
	成績評価との関係：観点別評価の内訳に準じる。
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポート作成において図書館にある書籍を紹介する。 書道室に配架されている図書館の書籍を資料として活用する。

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プリント 教科書p14～	オリエンテーション 楷書の学習 初唐の三大家
	5	教科書p30～	顔法　造像記の学習
	6	法帖	半切臨書作品 文化祭作品制作 落款について レポート課題
2	9	教科書p60～ プリント教材	篆刻の学習 大東文化大学全国書道展出品
	10	教科書p36～ 手本蘭亭序	行書の学習 王羲之 顔真卿 空海
	11	行書まとめ	八つ切りに書く レポート課題
3	1	教科書p68～ 教科書p66～	草書の学習 隷書の学習
	2	教科書p82～	仮名の学習 単体　連綿　臨書 テスト

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	英語	EC I	進学	4	井原・田代・山﨑・東牧原・藤本

教科書	FLEX I（増進堂）	
副教材	聞く・話す・書く 英語の語順トレーニング Level 2(ELPA英語運用能力評価協会) 英単語ターゲット1400	
評価基準	観点① 知識・技能 ＊教科書・副教材で扱った事項を正確にマスターできている	
	観点② 思考力・判断力・表現力 ＊①で習得したものをベースに、応用問題が解けている	
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ＊授業内のオーラル活動、音読テストに取り組めている	
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。	
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1･2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10	
テスト・評価の内訳	観点①	
	観点②	
	観点③	
授業のねらい・進め方・注意点	・1学期中間考査までは、中学英語復習プログラムを行う。 ・授業内での活動を通して、英語の4技能（Listening, Reading, Writing, Speaking）を総合的に育成する。 ・各レッスン、音読テストを行う。・iPad / schoolTaktとノートで授業を行う。	
家庭学習	学習内容と進め方	主に復習として新出単語、本文、チャンクを音読する。
	学習の目安時間・分量	5〜10分を上記の内容に充てる。
	学習状況の確認方法	各単元の学習後に行う音読テストにて、正確に円滑に発音できているか確認する。
	成績評価との関係	観点①③に反映される。
図書資料の活用等・探究へのつながり		

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	語順トレーニング Level 2	中学内容の復習
	5	Lesson 1 中間考査	これ以降、教科書を使用する
	6	Lesson 2,3 期末考査	
2	9	Lesson 4,6	
	10	中間考査 Lesson 7,8	
	11	期末考査	
3	1	Lesson 9,10	
	2		
	3	学年末考査	

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	外国語	論理・表現I	進学	3	濱井 鳥海 東牧原 久保田

教科書	FACTBOOK English Logic and Expression I(桐原書店)→授業では使わない
副教材	【テキスト、ワークブック】SKYWARD 総合英語 Intensive English Skills in 30 Lessons(同) 【参考書】SKYWARD 総合英語(同)
評価基準	観点① 知識・技能 テキスト、ワークブックの学習事項を理解し、再現できること
	観点② 思考力・判断力・表現力 習得した文法事項を使って、別の問題を解いたり、自分で英文を書けること
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業外、家庭学習の課題に取り組むこと、及び授業内での活動に能動的に参加すること
考査	1学期中間･1学期期末･2学期中間･2学期期末･学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1･2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10
テスト･評価の内訳	観点① テキスト、ワークブックと同一問題を出す。
	観点② ・テキスト、ワークブック問題の改題　・初見の問題(過去の模試等から)
	観点③ 授業内の取り組みや家庭学習の成果を確認する。なお、この観点では正確性は問わない。「やった」か「やらなかったか」を評価ポイントとする。
授業のねらい･進め方･注意点	・外国語として、日本語とは言語構造が異なる言語である英語、の位置付けでは、文構造、文法の正しい習得、理解があって初めて上達する。この前提で授業や家庭学習を行う。 ・授業内で全ての問題を解き、解説することは分量、時間的に不可能です。各クラス担当の指示に基づき、家庭学習として解くことを重視してください。
家庭学習	学習内容と進め方	授業中にやり残したものを中心に、「家庭学習課題」とする。ヒントは授業内や参考書に載っているので、自分で見つけ出し、納得する過程を大切にしてほしい。
	学習の目安時間・分量	最初は1回10～15分程度で終わる範囲から。習熟が進めば、増やすことも検討する。
	学習状況の確認方法	提出による(オンラインも含めて)
	成績評価との関係	提出状況をポイント化する。先にも書いたように、正解率は問わない。取り組みそのものを評価する。
の活用等・探究へのつな	インターネットでよいので、趣味分野の英文を、キーワード検索して探し、読んでみることを推奨します。

授業の計画【テキスト、ワークブック】で進めます

学期	月	章	文法項目
1	4	Pre-Lesson 1	英語の基本(1)品詞
		Pre-Lesson 2	英語の基本(2)動詞と文の基本構造
		Pre-Lesson 3	英語の基本(3)5文型
中間		Lesson 1 時制(1)	現在形 現在進行形 過去形 過去進行形
	5	Lesson 2 時制(2)	現在完了形 現在完了進行形
		Lesson 3 時制(3)	意志・未来 注意すべき現在/進行形
		Lesson 4 時制(4)	過去完了形　時制の一致
		Pre-Lesson 4	英語の基本(4)句と節
		Pre-Lesson 5	英語の基本(5)文の種類
	6	Lesson 5 助動詞(1)	can, may, will be able to, have to, had better, should
期末		Lesson 6 助動詞(2)	could, might, will, must, 助+完了形
		Lesson 7 助動詞(3)	would, shall, should, used to, do
		Lesson 8 受動態(1)	基本形 否定文 疑問文 完了・進行形
	7	Lesson 9 受動態(2)	-ed 形容詞　it is said that
2	9	Lesson 10 不定詞(1)	基本形 V+O+to-do be+形+to-do
		Lesson 11 不定詞(2)	様々な形 V+O+do 文頭の不定詞句
中間		Lesson 12 不定詞(3)	意味の識別 完了不定詞 be+to-do 意味上の主語 形式目的語
	10	Lesson 13 動名詞と分詞(1)	動名詞 分詞の前置/後置修飾
		Lesson 14 動名詞と分詞(2)	Cの働き 副詞句 連語 分詞を含む語句
		Lesson 15 動名詞と分詞(3)	名詞+分詞 分詞構文
	11	Lesson 16 関係詞(1)	関係代名詞 関係副詞 前+関係代名詞
期末		Lesson 17 関係詞(2)	関係詞の用法 関係代名詞what 複合関係詞
		Lesson 18 比較(1)	原級 比較級 最上級
	12	Lesson 19 比較(2)	最上級の使い方 慣用表現
3	1	Lesson 20 仮定法	Ifを使う仮定法 I wish
		Lesson 28 接続詞(1)	等位接続詞 従属接続詞
学年末	2	Lesson 29 接続詞(2)	when, if, that
		Lesson 30 接続詞(3)	接続詞を含む英文の解釈
		(総復習)	Workbookの各章【C】Reading

※ここに載っていない項目は、進学講習(夏冬春)で扱います

２０２６年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
1	情報	情報Ⅰ	進学	2	熊谷・福田

教科書	『情報Ⅰ』（数研出版）
副教材	『情報Ⅰ　サポートノート』（数研出版）
評価基準	観点① 知識・技能 基本的なコンピュータの操作方法を身に着けることがでた。 情報社会を生きるうえで基本となる知識や法規を身に着けることができた。
	観点② 思考力・判断力・表現力 情報を発信するうえで受け手の立場に立った表現をすることができた。 課題を解決するために自身の持っている知識を使い論理的に考え答えを導き出すことができた。
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業以外の時間にも積極的にコンピュータに触れ、新しい技術に触れ、 自身の情報処理能力を向上することができた。
考査	1学期期末･2学期期末･学年末の計3回実施 上記考査は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1･2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10
テスト･評価の内訳	観点① 教科書内で出てくる重要語句の書き取り
	観点② 学習した技術の応用
	観点③ 課題等の提出物
授業のねらい･進め方･注意点	特にOfficeソフトを中心に実技の課題を実施する。 また、ICTに関するモラル・法規・基礎的な技術について理解を深め、サイバー犯罪などといった脅威から自身を守るための知識を身に着ける。 コンピュータの操作に自身のない生徒は、予習をしっかり行い分からないことはすぐに教員へ質問することを心がける。
家庭学習	学習内容と進め方	ワークを中心に重要語句を覚えること。また、ワークは最低でも２周、できれば３周を目標として取り組むこと。家庭でもコンピュータを積極的に触り、捜査に慣れること。
	学習の目安時間・分量	テストに向けてワークを最低２周程度の学習時間を確保すること。
	学習状況の確認方法	学期末のワーク提出をもって確認をする。
	成績評価との関係	ワークの提出をもって観点③の評価とする。
図書資料の活用等・探究へのつながり	

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	オリエンテーション ２章コミュニケーションと情報デザイン ３節情報デザインの実践	情報教室で使用できるPC・iPadへのログイン方法や教室内の利用法について学び、IDとパスワードの管理法について学ぶ。 iPadのプレゼンテーションソフトを用いて自己紹介用のプレゼンを制作し、発表する。
	5	１章情報社会と問題解決 １～３節	情報社会の特徴やそれを指させる法律について学習する。また、問題の解決手順を学習し実践する。
	6	２章コミュニケーションと情報デザイン １・２節 ワープロソフトの実践	情報メディアの特徴を理解し、正しいコミュニケーションが実現できるように学習を行う。 Microsoft社のWordを使用して提示された見本通りにデータを編集する課題を行う。
2	9	３章情報のデジタル化とコンピュータ １・２節	デジタルデータの特徴を理解し、デジタル化の仕組みやメリットデメリットについて理解をする。
	10	表計算ソフトの実践	Microsoft社のExcelを用いて基本的な関数の操作などといった基本的な操作を学習し、見本同じようなデータを編集すして作成する課題を行う。
	11	４章アルゴリズムとプログラミング １・２章	アルゴリズムを考えフローチャートとして表現し、課題を解決するプロセスを学習する。 プログラミングはScratchを用いて行う 基本的な順次・分岐・反復といった処理ができるようになり簡単な計算をプログラミングを習得できるように学習する。
3	1	５章情報通信ネットワークとセキュリティ １～３章	情報セキュリティの重要性と防衛策を学習し、正しく身を守る力を手に入れる。
	2	６章データの活用とシミュレーション １～３章 タイピングテスト	実際のデータを利用し、データの操作とデータの特徴を発見できるようになる。 ブラインドタッチの習得を目標に各授業でトレーニングを重ねる。

一年次　総合的な探究の時間　シラバス

活動の指針	一年次では、テーマに沿った内容を調べ、考えるとともに他者との交流を 通じてアウトプットを目指し、探究する土台を作り上げる。 アウトプットを目指し、探究する土台を作り上げる。 一学期　キャリアナビのプログラムに沿った基本事項を学ぶ。 二学期　学校近隣地域に関する探究と国際理解に関する探究を行いグローバルにつなげていく。 三学期　キャリアナビを使って、二年次に行う個人探究の準備を行う
教材教具	□　iPad　（Classroomの連絡が確認できる端末） □　キャリアナビプログラム □　その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。
一学期	次年度以降も活用できる探究の基本事項をプログラムを通して学ぶ 授業の流れ ①「キャリアナビ」を使って探究活動を体験する ②「キャリアナビ」を使って地域活動に関しての探究活動の基礎を学ぶ ③地域の人の話を聞くなどして、地域活動に関するアイデアを考えてみる ④可能なら地域でっ実地検分を行う ⑤一学期のまとめ　夏休みの課題説明
夏休み	
二学期	キャリアナビのプログラムより探究活動の過程を身につけ、12月に行う グローバル探究に結び付けていく。また、成果をまとめていくためのスキル として、小論文の書き方の基礎を学ぶ。 ①グローバル探究に向けての学校近隣の地域をテーマとして情報の収集 分析・まとめを行う。 ②小論文の書き方の基礎を学ぶ。 ③グローバル探究に向けての準備を進める。 【グローバル探究】　期末試験後の2日間で行う。 →　これまでの学習を踏まえ、協働性と表現力を養う。
三学期	2年次に行う個人探究に向けての準備を行う。 授業の流れ ①二学期の振り返り ②次年度に行う個人探究に向けての準備として、自己や社会を理解し 知識を深めていく ③個人探究のテーマを決め、探究を進めていく ④最後の授業で、2学年の個人探究成果発表を聞く

注意	
基本事項	１年間を通じてプログラムに沿った形で探究について考える。 探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 次年度では個人での探究活動も行うため、考え方の基礎を身につける。
成果物	調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した 成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
①クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ②協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って＋αのアイデアを出す。 ④グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。	
注意事項	評価指標
個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり…はやめる。 人に指示してやらせてばかり…はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。	協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。